

## 2009年 ロシア語通訳協会関西支部勉強会「フィラートフを読む会」の報告

講師：ミグダリスキー ウラジーミル氏

### Л. Филатов «Про федота-стрельца, удалого молодца»

(「雄々しき若者・フェドット銃兵についての昔話」) の講読会に参加して

関西支部 久野 かおり

2009年2月～4月にかけて関西支部では、4回にわたって、会員のミグダリスキーさんによる「雄々しき若者・フェドット銃兵についての昔話」の講読会が開催されました。物語の原型は中世のおとぎ話。内容は比較的シンプルで、王様が、主人公の銃兵フェドットの妻を横取りしようと、フェドットに様々な難問を仕掛けてくるが、フェドットはこれを次々に解決していくというもの。これを（俳優・映画監督でもある）劇作家のレオニード・フィラートフが詩の形にまとめ、1986年に発表したのが、今回読んだ作品です。

作品中には、現代標準ロシア語にはない古い形のロシア語が多用されています。私は、予習の段階で、ミグダリスキーさんが事前に用意して下さった細かい注釈書と原文をつきあわせてみましたが、原文は「なんだか見慣れない、しかも古臭そうな言葉ばかり」という印象を受け、「ちょっと一人では手に負えないなあ」、しかも「面白いのかなあ」と、正直、第1回目の会には、半信半疑で参加しました。



ところが。出てみると、意外や意外！ 3時間の講義はとても面白く、あっという間に終わってしまいました。まず、作品で使われている表現の面白さ。おとぎ話が原型といっても、さすが1980年代に書かれた作品。そこには、古い言葉だけではなく、ロシアの現代の日常生活で使われている（しかも辞書にはない）言い回し、そして（ソ連時代特有の）風刺が満ち溢れていたのです。これに加え、講師のミグダリスキーさんの言葉に対する鋭い感覚と深い知識に裏打ちされた、語句解説や補足説明の面白さ。



例えば、Кто хочет на Колыму? (誰がコリマ川(収容所)にいきたいのか?) という王様の言葉がでてきた際には「これは、同時代の映画「Бриллиантовая рука」にでてくる «Ну, будете у нас на Колыме...» «Нет уж, лучше вы к нам!» というやりとりを意識したもの。我々も、日常生活で «Вы будете у нас в гостях» などとロシア人に誘われた際に、«Нет, вы лучше к нам.»

と冗談めかして答えるとうけるかもしれません」という解説がありました。私は、ガイドの仕事で次回、お客さんに「お客にきてね」などといわれた際、これを使ってみよう、と思いました。

文学作品ということで参加する前には、多少抵抗がありました。ミグダリスキーさんというネイティブスピーカーの素晴らしい先生のおかげで、作品を楽しみ、またロシア語の面白さに改めて気づくことができました。

私が東京から関西支部に移ってきて約3年がたちますが、関西支部でこれだけ素晴らしい勉強会ができるということに、正直驚きました。

今回は、この講読会でもしばしば引き合いに出された映画「Бриллиантовая рука」の勉強会が予定されており、映画好きな私は今から心待ちにしています。

